ニューヨーク通信（15）

アメリカの中間選挙

天理教ニューヨークセンター所長
福井　陽一　*Yoichi Fukui*

ニューヨークの治安とアメリカ中間選挙

10月25日、ニューヨーク州の最高裁判所は新型コロナウイルスのワクチン接種義務に従わずに解雇されたニューヨーク市職員を復職させ、過去に遡り給与を支払うように命じた。裁判所は市の接種義務は恣意的で気まぐれなもので、違憲と認めた。ニューヨーク市は未接種を理由にこれまで約1,400人を解雇しているようで、今回の判決はワクチン接種を強く推進してきた現政権にとって逆風であり、11月8日に行われるアメリカ中間選挙の結果にも影響する可能性があると言われている。

ニューヨーク州は長い間民主党が圧倒的に優勢な州であり、民主党員は共和党員の約2倍となっており、過去20年間、共和党の知事が選出されていない。今回の中間選挙では民主党の現職ホウクル知事と共和党のゼルディン氏との対決となっている。

今年は40年ぶりの高いインフレ率に悩まされているが、ニューヨーク州では経済問題より、治安問題が最も重要な課題となっているようだ。ニューヨーク州では過去1、2年間に刑事司法改革が行われ、軽犯罪を犯しても保釈金を納めることなく釈放されるという法律（Cashless Bail）が導入された。これに似た法案はカルフォルニア州でも成立しており、例えば、窃盗したものが合わせて950ドル以下であれば軽罪となり提訴されにくくなる。そのために犯罪が増加し治安を悪化させていると言われている。

それに加えて、ニューヨーク州は、青少年の犯罪年齢を18歳まで引き上げたり、警察の権限を制限する法令を定めた。そのために、犯罪の温床となり、凶悪事件が頻発している。特にニューヨーク市の地下鉄はとても危険な場所となり、人をホームから突き落としたり、強盗したり、発砲事件が多発している。ニューヨーク市長は10月に非常事態宣言を発した。不法入国した移民が急増したこともあり、収容所に入っている人は過去最高水準となっているからだそうだ。

ゼルディン氏は民主党が主導してきたこれらの法律を即廃止することを公約に掲げ、ニューヨークの人々の共感を得つつある。現職のホウクル知事は、妊娠中絶の権利を保証することに焦点を当てている。ニューヨーク州の民主党の地盤は堅いが、都市犯罪問題だけで今年の中間選挙において、ニューヨークが共和党の州になる可能性が出てきている。

以前ジュリアーノニューヨーク市長が治安回復に尽力して警察官を増員し、安全な街づくりを実現したことをニューヨークの市民は忘れてはおらず、再度治安が回復することを切望している。

現在アメリカの議会は上院も下院も民主党が支配しているが、今回の中間選挙では、両院とも共和党が奪還するのではないかとの予想が出てきている。この『グローカル天理』が発行される頃には結果が出ているが、今回の中間選挙は、アメリカの今後の方向性を決める大切な選挙になると思われる。

天理こどもクラブの活動

ニューヨーク天理文化協会の活動の一つに天理こどもクラブがある。これは、正規の日本語クラス以外の課外活動のようなもので、月1回ぐらいの頻度で開催される。パンデミック前は鼓笛の活動を中心に進めてきたが、現在は日本の文化体験をテーマに行われている。文化協会に通う子供たちが教室外で他のクラスの生徒と触れ合う機会を設け、活動を通して感謝・慎み・たすけ合いの心が育つように企画している。

前回は「秋祭り」体験をテーマに子供たちでお神輿を作り担いだり、ハッピを着たり、金魚すくいなどして楽しんだ。23名の子供たちが参加した。この行事の手伝いに現地の学生会や青年会、女子青年の人たちも加わり共々に楽しいひと時を過ごした。

写真：天理こどもクラブ「秋まつり」

「ニューヨークの厳しい環境の中で育つ子供たちにとって、このような機会を通して日本文化に触れ、優しい人々と触れ合う事は、それだけで大変幸せな貴重な体験です」「先生方が一生懸命用意してくださったのだなぁと思い温かい気持ちになりました」などの嬉しい感想をいただいている。

アメリカ伝道庁は2024年に創立90周年を迎えるが、活動目標の一つに「コミュニティーに最も必要とされるひのきしん活動を見つけ共に行動に移す」とある。こどもクラブの活動が地域コミュニティーに貢献できるように継続し、ニューヨークで育つ子供たちの心にほんのりとした温かい思い出が残ればと願っている。

リーマンカレッジとの交換留学開始

パンデミックの影響で延期になっていたニューヨーク市立大学リーマンカレッジとの交換留学がようやく実現し、8月から1年間の予定で2名の天理大学生が学んでいる。一般の学部の授業の他に日本語クラスのティーチングアシスタントも行っている。2人は、それぞれ現地の布教所に宿泊しながら通っている。通学に時間がかかるのが課題だが、充実した毎日を過ごしているようだ。第1回目の留学が成功し、引き続き多くの天理大学生がニューヨークを訪れ学んでいけるように願っている。